



# JEG ニュースレター 180号

www.jegschweiz.com

2021年9月18日

## 小さな証

アジアの信仰の自由が許されない国でイエスと出会った一女性が、召しに応じて日本への宣教を決心するまでの証。 p2

## スイスJEG修養会

東スイスの豊かな自然のなかで2年ぶりに修養会が開催され、対面での交わりとみことばの学びに参加者の顔には喜びが溢れました。 p3

## プリンセス会お泊り会

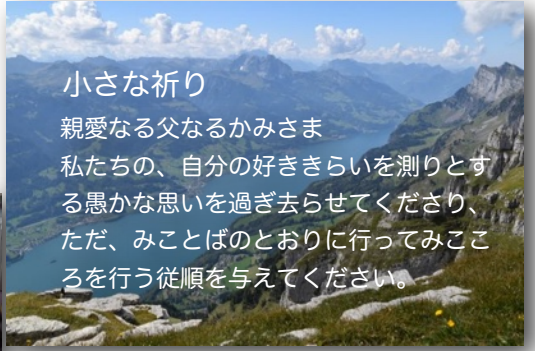
昨年引き続きスイスJEG姉妹会のお泊まり会がフィンランドから加藤琢実師を迎えて開催されました。その証を4-5pでお読みいただけます。

## 第38回キリスト者の集い

昨年は惜しくも中止となったヨーロッパ・キリスト者の集いが仏ストラスブールで開催されました。その証と感想文集を添付いたします。

## 小さな祈り

親愛なる父なるかみさま 私たちの、自分の好ききらいを測りとする愚かな思いを過ぎ去らせてくださり、ただ、みことばのとおりに行ってみこるを行う従順を与えてください。



わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——主のことば——。それはわざわいではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。  
エレミヤ29章11節

## 第38回 ヨーロッパ・キリスト者の集いの開催地 フランス・ストラスブール



## ちいさな証

## 私のビジョン、私の願い

瑛 美  
エイ ミ

スイス日本語福音キリスト教会

私はアジアのある国で生まれました。家族と友人には誰一人クリスチャンはいませんでした。学校では、「神などいない」と教わりました。神様がもしいないのであれば、誰がこの美しい自然を創造したのだろうかとよく考えました。中学校の頃、歴史の本の中にイエスの記述があるのを見つけました。イエスは世界にある色々な宗教の創立者の中の一人であり、イエスは救世主ではないと本には書かれてありました。何故なら、彼は十字架につけられて、自分で自分を救えなかったからでした。私はこの話にびっくりして、聖書が読みたくなり、聖書を探しましたが、どこにも見つかりませんでした。教会も見つける事がむずかしかったからです。

それから数年後、大学の夏休みに、他の町に住むいとこを訪問しました。ある日、散歩していると雨が強く降ってきたので、傘を持っていない私はどこか建物に入って雨宿りしなければなりません。私は何も買いたくありませんでしたが、近くの鞆屋に入りました。入ると売り台の上に本が置いてあるのを見えました。その店員はお客さんがいない時にその本を読んでいたそうです。店員に尋ねると、その本は聖書で、自分はクリスチャンだと答えました。とても驚きました。彼は私に大学に帰ったら、神様に、神様を知ることができる場所を教えてくださいとお祈りすることを勧めました。祈り方が全然わからなかったけれども、心の中で神様を知ることができる場所を教えてくださいと祈りました。

その週末、二年間も会っていなかった高校の同級生が突然大学に私を訪ねてきて、私を聖書のグループに連れて行きたいと言いました。私は神様が私の祈りに応えてくださったと思い、その時から私は絶対に神様はいると信じるようになりました。その同級生と一緒に、聖書の集いに参加して、聖書を頂き、イエス様が人間を愛していて、十字架につけられたことを聞きました。そして教会に行くだけでクリスチャンになれることが解って、自分はもうクリスチャンになったと思っていました。福音は全然わからなかったし、聖書を読むことも全くなかったのに。大学を卒業してから、仕事が忙しくなり教会に行かなくなりました。

7年目に、私は大きな都市に住み、心はとても虚しさを感じていました。それから聖書を読むことを始めましたが、なかなか理解できませんでした。私は聖書の学びができるように、場所と先生を教えてくださいと神様にお祈りしました。そのすぐ後に、会社からパーゼルの本社で働きたいかどうかという打診がありました。神様が祈りの答えとして、パーゼルの良い教会に参加させてくださるのかもしれないと思ったので、私は会社に「はい」と返事をしました。数ヶ月後に、パーゼルに来て、初めての日曜日に国際教会の礼拝に参加しました。この教会は良い教会だと感じ

続けて行こうと思いました。聖書をよく読むようになり、聖書を読むのが楽しくなっていました。

しかし、しばらくたってから、落ち込みました。神様は神聖で罪が全然ない、しかし私は罪人で神様に近づけないと思いました。教会の人はイエス様に結ばれている人は裁かれないと言ってくれました（ローマ8章1節）。本当に何もする必要が無く、イエス様を信じるだけで十分なのだろうと思いました。でも福音は真実だと思い、それに信頼して、私の罪が赦されることを信じようと思いました。すると、すぐに神様が平安や満足や愛や喜びで私の心をいっぱい満たしてくださいました。このような素晴らしい経験はそれまでありませんでした。

それ以来、私の人生は少しずつ変わっていききました。かつて私が大切にしていたものを私は損失とみなしました。毎日の神様との歩み、御言葉の学び、教会での生活や奉仕がますます重要になってきました。聖書学校で学ぶ機会が与えられました。卒業した後、現在、神学校のオンライン修士課程を勉強し続けています。教会では、子供達に日曜学校で教えていますし、若い人々や女性たちともよく会って、彼らが主のすばらしさを見て味わうように励ましています。

そのうちに、イエス様が広く伝えられていない国ではどうなっているのだろうと思うようになりました。何年も前に「宣教」のアイデアが頭に浮かびました。2016年以来、私は日本での宣教がいかに難しいかという話を聞き続けてきました。そして、日本は世界で二番目に未伝の国であることを聞いて驚きました。2019年に神様が日本で奉仕することを望んでおられるかどうか、祈り始めました。また、2020年1月、コロナウイルスが発生する直前に日本を訪れ、いくつかの教会を訪問しました。日本にはとてもよい教会があることがわかりました。しかし、街中の大勢の人々に比べると、日本のクリスチャンはとても少なく、社会では苦しみが多いと思いました。日本から帰国した後、日本に行くことが神様の御心なのか、もっと熱心に祈るようになりました。

神様は、私のような惨めな罪人を救い、私のような価値のない器を使うことを決められました。なんとこの恵みでしょうか。何という慈悲でしょうか。この証しを通して、皆さんが神の栄光を目にし、唯一まことの神を多くの人々に知ってもらいたいと思います。



1. スイスJEG修養会が2年ぶりに対面にて実現

6月11日から13日まで、スイスJEGの修養会が3年前と同じ東スイスTogenburg/SGの緑豊かな山岳地に位置するHemberg村にあるAlpenblickで34名の参加者を迎えて開催されました。昨年同会場で予定されていた修養会はパンデミックのために惜しく

も中止となりましたが、今回は素晴らしい天候のもと、み言葉に耳と心を傾け、ハイキングを楽しみ、対面ならではの喜びと祝福に満ちた修養会となりました。

金曜日からのマイヤー牧師による講演は、ネヘミヤ記から、バビロン捕囚から帰還したイスラエルの民が、廃墟と化したエルサレムを再建する実話を基に、現代にも適用される豊かな内容でした。これらの講演の全ては、スイスJEGのHP礼拝メッセージサイトから視聴していただけます。

また、スイスJEG修養会2021の記録ビデオは下のURLをクリックしてご覧いただけます。(8分50秒)

[https://www.youtube.com/watch?v=Oj24-8mQ3gl&ab\\_channel=KojiroMatsubayashi](https://www.youtube.com/watch?v=Oj24-8mQ3gl&ab_channel=KojiroMatsubayashi)

2. 第2回スイスJEG・プリンセス会お泊まり会

7月8、9日とヴィンタートゥア近郊にあるレーミーミュールの宿泊施設で、フィンランドから加藤琢実師を迎え、5人の参加者と共に第2回プリンセス会お泊まり会が行われ、深い交わりを持つ幸いを得ました。以下はトムセン千香子姉による報告です。

初日はそれぞれが持参したお弁当で、施設の庭にあるパピリオンにおいてピクニックランチをしました。昼食後、たくさんの賛美を挟みながら、それぞれが年頭に立てた目標に対して今現在の自分の状態や証などを、お互いがシェアしました。私たちは月に一度ズームを用いて顔を合わせていますが、たつぷりと語り合える時間の中、ゆっくりと話をすることで交わりも深まり本当に感謝でした。

夕食後も引き続き順番に話しましたが、夜更かしすることなく、10時には部屋に戻りました。今回仲間に語ることによって自分では気がつかなかったことを発見したり、励ましを受けたりしたのは、何よりも聖霊の働きでした。そして2021年下半期の目標を主がそれぞれに与えてくださいました。具体的な目標またはビジョンを持って信仰生活を歩むことの大切さを教えていただきました。参加者の感想がニュースレターの4、5面に掲載されています。



スイスJEG修養会

3. 第38回ヨーロッパ・キリスト者の集いを開催

昨年のデュッセルドルフ大会は中止となりましたが、第38回ヨーロッパ・キリスト者の集いが、「キリストにある希望」をテーマに仏東北部の古都ストラスブールで7月29日から8月1日まで開かれました。

このパンデミックの渦中での開催は最後まで危ぶまれましたが、敢えて遠い道のりと不安と困難を乗り越え欧州在住の邦人キリスト者とその家族を中心に89名が(オンラインによる参加者47名)参加しました。「主の御心なら現地での開催を」と2年がけて準備してきた実行委員会の情熱と願いに主は応えてくださいました。

2年ぶりに顔と顔を合わせて、共に主を賛美し、周到に準備された各講師の講演から大きな恵みと励ましを頂きました。また、フランス国内の感染者数がうなぎのぼりに増加するなか、今回初めて設置された感染予防委員会の周到な働きのおかげもあって感染者を一人も出さず無事に終了できたことは奇跡でした。まことに、今回の集いほど主の憐れみと溢れんばかりの愛を実感した集いはこれまでありませんでした。

第38回の集いの証と感想文集もできましたので、添付のPDFファイルによってお読みになってください。

この集いの全記録はオフィシャルHPの第38回特設サイトでご覧いただけます。記録ビデオ(ダイジェスト版)は次のURLをクリックしてご視聴いただけます。<https://www.youtube.com/watch?v=VT7wXC9h6kg>

第38回の集いの証と感想文集もできましたので、添付のPDFファイルによってお読みになってください。

4. トムセン・カレンさんと渡邊 航君がご結婚!

9月18日(土)14時よりフランクフルトのGustav-Adolf-Kirche(グスタフ・アドルフ教会)にて、トムセン・カレンさん(スイス)と渡邊航君(デュッセルドルフ)がデュッセルドルフ日本語キリスト教会のヘーゲレ牧師の司式のもと、結婚式を挙げられました。



二人は、キリスト者の集いやユーストリート、パイブルグループでの活動や学びのなかで知り合い、愛を育てられました。若いクリスチャンファミリーの誕生に両教会の兄弟姉妹に大いに祝福されての新しい人生の旅立ちです。これからも主の祝福と導きが豊かに注がれますようお祈りしています。

5. 世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています!

在欧日人宣教会NL、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、ミラノの風、イザール通信、森ゆり空レタ配達人、「宣教の声」が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄弟は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

## 心の思いと行動で クスター節子

今年初めてのプリンセス会でそれぞれ一年の目標を語り合ったので、半年経った今どのくらい目標に近づけたかを報告しあう機会を得ました。

神さまが一人一人愛をもって造ってくださったのに私は好き嫌いが激しいため、愛することのできない兄弟姉妹をたくさん持っていました。主はそんな私にも聖霊さまをおよこしになり傲慢な心を少しずつですが変えてくださっていることをプリンセス会の姉妹たちとの交わりの中で気づかせてくださいました。

またこれらの学びが弟子訓練にもなっていて、弟子とは何をするのかを学ばせていただきました。

イエスさまの戒めを守りながら、兄弟姉妹とどのように接していくべきか、また福音を知らない方にどのように伝えるのかを学ぶ機会となりました。何よりも言葉ではなく、心の思いと行動でイエスさまの愛を表すことが大事なことを知ることができました。

一人では気づかないことを姉妹たちと話し合いながら教えていただけたことは本当に素晴らしいことでした。



## 御国を受け継ぐプリンセス トムセン千香子

昨年の秋に行ったプリンセス会にはコロナ濃厚接触者となり、突然、琢実さん、葉子さんとともにzoomでの参加となりました。今回は初めての現地参加ができて、とても感謝なことでした。

1日目に今年の年頭にプリンセスとしてのアイディンティーを確立することを目標に立てました。そのためには主の視点で目の前の出来事を見ることでした。

昨年のプリンセス会でプリンセス度テストをみんなでやってみました。神の子供とされた私たちは、御国を受け継ぐプリンセスでありプリンスです。奴隷ではありません。そのテストにあった多くの質問の中で、「自分を正当化するために

## スイスJEG・プリンセス会 お泊まり会に参加して



躍起になる」というのがありました。これをする人はプリンセスでなく奴隷であるということです。私はこの点においては奴隷です。

そして今回約半年が経ちました。教会での奉仕や日常生活の中で私はポカをしてしまった時、自分を正当化しようとしたり、はたまた落ち込んだりしました。なぜそうなるんだろう、これでは奴隷のままだと思い、なぜですか？と主に聞きました。神様が見せてくださったものは私というものが中心にどっかりと座っていて、自分で自分を守ろうとしている姿でした。

それはまさに罪や悪しき霊に支配されている卑しい奴隷の私です。私は悔い改めて、御国を



受け継ぐプリンセスであるアイディンティーを受け取りますと祈りました。失敗も、困難も神様の視点で見れば私を成長させるためのもの。落ち込むなんてとんでもない、ハレルヤと喜びます。

奉仕をしている私はただの器であり、完全に自分に死んで、ただ主に使っていただけるようになりたいという次の目標を立てました。

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなくキリストが私のうちに生きておられるのです。ガラテヤ人への手紙2：20a」

## プリンセス会、第一回目と第二回目で 受けた恵みのお分かち

### 今村葉子

私がプリンセス会で学んだことは、プリンセス会の主旨である「キリストと共に死にキリストと共に復活した私たちが後に父なる神の御国の世継ぎとなる(エペソ1:11)ことを自覚していますか？そしてその素晴らしい神様のご計画を理解して、毎日をご過ごしていますか？」ということでした。

プリンセス会の参加者同士で主がして



## スイスJEG・プリンセス会 お泊まり会に参加して

くださった恵みを証しあうことによって、王であり父である私たちの主は、私たちの日々の生活のあらゆる場面を通して、私たちを主の御国を受け継ぐものとなるように、養育してくださっていることがわかりました。そして私たちは互いに主を証しすることで、互いに励まし合うことができ、また共に祈り合うことで神様の恵みが倍増し、互いの霊的成長を喜び合うこともできる。この素晴らしい中に留まり続けることが神様からのプレゼントだと思いました。

以下はプリンセス会お泊まり会（二回分）で私に語られた主の言葉と私の決心です。

1回目のお泊まり会では、自分の現在の神の子としての自覚、アイデンティティーを確認しました。主よ、主よと語りかけ、また熱心に奉仕していると思っていた私の御国を受け継ぐものとしてのアイデンティティーはかなり低く、落ち込みました。が、主はピリピ2：4～6のみ言葉をもって、もう一度私にご自身を表してください、思いを新たにイエス様に従うことを決めました。

また、いつも感じてしまう「実力もないのに、イエス様の弟子というプレッシャーや、尻込み加減な思いにとらわれる私に、マルコ4：21

「イエスはまた彼らに言われた。明かりを持って来たのは、升の下や寝台の下に置くためでしょうか。燭台の上に置くためではありませんか。」のみ言葉をもって神様は私をこの世に主を指し示す灯火として置いてくださったことを語ってくださいました。「そうです、主よ、私はあなたにいただいた素晴らしい光を私の日常に輝かせます。」と決心しました。

この二つの決心はこの一年間で何度も繰り返し神様から迫られ続けられています。

7月に行われた第二回プリンセス会お泊まり会の二日目の朝の学び『ルカ6章から、イエス様は「互いに愛し合うため」になんと言っておられるか』に注意して読んでみました。この章には私の今年のみ言葉「あなたがたの父があわれみ深いように、あなたがたもあわれみ深くなりなさい。」ルカ6：35もありました。主の導きを強く感じました。



私に示されたことは

- 1、イエス様はいのち（その人の人生の必要）を最優先しておられた。
- 2、イエス様の怒りは無慈悲なものに対してであった。
- 3、イエス様の具体的な勧めと実践は、敵を愛し、呪う者を祝福し、侮蔑する人のために祈り、奪うものから取り戻してはいけぬ。

もう私の思いを挟まないと決心し、ただ私はイエス様のおっしゃった具体的な勧めを、屁理屈を言わずに実践しますと決心しました。

1日目の夜にはみなさんの前で「神様、私はあなたの器として召されたいです。自分に死ぬものとなります。」

と宣言しました。そしてこれは私の努力でできることではない。これこそ、「人にはできないことが神にはできるのです。」ルカ18:27と示されました。これからも御霊の導きとお父さんの養育を受けていきます！



プリンセス会お泊まり会でみ言葉を中心に参加者の皆さんも私も共に心を探られ、目標に向かって導かれることは私にとって本当に喜びです。

私がいただいた恵みをいくつかお分かちいたしました。それでも天のお父様の恵みは大きすぎて、語る言葉もありません。

最後に聖霊の導きに完全に従い、導き続けてくださっている塚実さん、そして忙しい毎日の中、祈りながらオーガナイズしてくださっている千香子さん、感謝いたします。お二人を主がますます祝して用いてくださいますことをお祈りして報告を終わらせていただきます。

